

## 美術科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 谷田 恵実

1 対象・日時 2年 組 令和5年2月17日(金) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 光の形や色彩，材料の特性などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などを基に，主題と関連付けた機能と美しさを考えながら，全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>② 材料の特性や用具の生かし方などを身に付け，意図に応じて創意工夫し，制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。</p>	<p>① 使う条件などを基に，使用する者の気持ちや目的，社会との関わりなどから表現したい主題を生み出し，材料の特性や光，色彩の美しさ，機能などとの調和を総合的に考え，表現の構想を練っている。</p> <p>② 光の形やそれらが生み出す効果に見られる機能と美しさなどを感じ取り，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や感じ方を深めている。</p>	<p>① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し，機能などとの調和を総合的に考え，表現の構想を練り，意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>② 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に光の形やそれらが生み出す効果に見られる機能と美しさなどを感じ取りながら，作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

3 題材「心を灯す ～ランプシェード制作～」について

日常生活を営む中で，人との繋がりを大切に，精神的な豊かさを実感しながら生活していくことは，生きていく上でとても重要なことである。そのためには，他者と関わることで生まれる楽しさや発見を体験し，社会にとって役に立つ何かを表現していきたいという自己有用感を高める必要がある。美術科の授業づくりにおいては，自分自身の表現を高めていくだけでなく，生活や社会を営む一人として，自分が生み出したものによって他者に感動や発見と与え，他者と感情を共有することが出来るという経験を通して，自己有用感を実感させることに繋がってほしい。

本題材では，紙という身近な材料を加工することで生まれる光の形や色彩，材料の特性などが感情にもたらす効果など基に，日常生活を過ごす上での空間の重要性やまわりに与える効果について考え，使う目的や使用する者の気持ちなどから表現したい作品について主題を生み出し，ランプシェードを制作する。物の魅力を見つける力を養い，それらを人に伝えることや，柔軟な思考力を培うことを目的とする。題材を通して，日常生活における美術の効果や，それらが人の感情に与える効果について様々な視点から考える活動を行う。生活の中の美術の在り方や柔軟な思考力について考え，作品が場に与える効果やその意義を学ぶ場を設定し，自らの可能性を考えさせながら自己有用感を与える機会としたい。

4 生徒の学びの履歴

2年時の“Fy 文様で学校を飾ろう～廊下に飾るデザイン～”や“和を伝えるポスター”の制作を通して，デザインの主題を伝えるために技法を効果的に活用することや，形や色彩などの効果や人に与える印象に着目しながら，作品を展示した時の見え方や伝わり方について学んだ。生徒の中には「美しいデザインって何？」「どうやったら構図を効果的に使えるの？」という美しくデザイン性に優れた作品を創ろうと試行錯誤する様子が見られた。そこからは，表現することの難しさや客観的な視点の重要性，美しいものをつくりたいという想いの強さ，自分が生み出す作品に対しての不安などが見られた。本題材では，ねらいとする効果を考えて主題を生み出し，ランプシェードで表現することを通して，それらが人の感情に与える効果や灯りとしての機能を意図した表現を追究する学習を行う。また，鑑賞活動を通して意見を交換しながら，他者の評価や考えを生かして柔軟に思考する力を養わせたい。

5 資質・能力育成のプロセス（7時間扱い、本時  は7時間目）

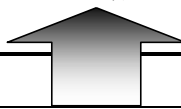
次	時	評価規準（想定する「Bと判断する状況」） （丸番号は、2の評価規準の番号）	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1	態① 紙のもつ造形的な美しさなどを主体的に感じ取り、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（○）	【発言の確認】【ワークシートの記述の確認】 C：和紙の重なりや形などに注目して考えやすいポイントを指摘し、それらについてどう感じるか考えるように促す。
2	2   3	思① 使う条件などを基に、使用する者の気持ちや目的などから表現したい主題を生み出し、材料の性質や光、色彩の美しさ、機能などとの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。（○○）  態① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、機能などとの調和を総合的に考え、表現の構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとしている。（○）	【行動・ワークシートの記述の分析】 C：紙を加工することで生まれる形や色彩、光の見え方の特徴を問いかけ、使う場面によってどう感じるかを考えさせたりして主題を生み出すように促す。  【行動・ワークシートの記述の確認】 C：ランプシェードを使う場面などを問いかけ、発想する楽しさを味わえるようにする。
3	4   6	知① 光の形や色彩、材料の特性などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、主題と関連付けた機能と美しさを考えながら、全体のイメージで捉えることを理解している。（○○）  知② 材料の特性や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて創意工夫し、制作の順序などを考えながら見通しをもって表している。（○）  態① 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、機能などとの調和を総合的に考え、表現の構想を練り、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表す表現の学習活動に取り組もうとしている。（○）	【行動・ワークシートの記述の確認】 【ワークシートの記述・作品の分析】 C：紙などを触らせながら、意図に応じて工夫して表せるように加工などを指導する。 C：形や光をどのように表現したいかなどを問いかけたりしながら特徴を掴めるように促す。  【行動・ワークシートの記述の確認】 C：考えたことや分からなかったこと、できたことを振り返り、制作の進捗と共に自分自身が気になったことを書けるように促す。
4	7	思② 光の形やそれらが生み出す効果に見られる機能と美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。（○○）  態② 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に光の形やそれらが生み出す効果に見られる機能と美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（○○）	【ワークシートの記述の確認・分析】 C：作品や作品の写真などからどのようなイメージを感じたのかを形や色彩、光などから考えさせる。  【発言・ワークシートの記述の確認・分析】 C：作品を見ながら、様々な捉え方があることに気付かせ、他者がどのような視点でものを捉えたのかを問いかける。

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> <li>板書やPowerPointを活用し、本題材の見通しをもつ。</li> <li>紙の美しさや、それらが生活に与えている効果とはどのようなものかを考え、感じたことをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考作品の画像や材料の見本を鑑賞し、形や色彩、光の効果から人の感情に与える効果などワークシートに記述させる。記述するときには、「どこからそう感じたのか」について具体的に記述するように促す。</li> </ul>	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>【課題】</b> 心を灯す ～ランプシェード制作～</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートや思考ツールを活用し、生活の中に様々な役割をもつ“空間”があることを知り、心情への効果について班活動を通して様々な視点から考える。</li> <li>個々で作品へのイメージを深めながら班員と自分の考えについて意見を交換してアイデアスケッチを固めていく。</li> <li>材料となる紙とライトを触りながら、どのような加工からどのような表情が生まれるかを学び、過ごしたい空間のイメージから、効果的な表現を考え、作品のアイデアスケッチを描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心に灯したい想い」についてワークシートや思考ツールを用いて考えを深め、日々を大切に過ごすうえで必要と思われる考え方、生み出したい心情を表現するために効果的な方法について実感をもって考えられるよう、形や色彩、光が効果的に使われている様子を想像できるように促す。</li> <li>アイデアスケッチや思考ツールを共有する場面を設定し、学びの深まりを促すと共に主題とアイデアスケッチの関係性も深まるように指導する。</li> <li>和紙、半紙、ファイバークラフト工作紙の3種類に触れ、班で意見交換しながら相互に意見交換しながら考えを深めるようにする。</li> </ul>	2   3
<ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアスケッチを基に制作を行うが、材料の特性を知り美しさを感じたことでデザインを変更することは可能であることを伝え、学びから柔軟な発想や制作ができるようにする。</li> <li>作品を飾った写真を撮影し、TPCを使いTeamsにて共有し、鑑賞授業時に見れるようにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の大きさは、15cm四方程度とする。</li> <li>絵具による着彩を行いたい場合は、紙によって表情が違うことや、透過率についても説明する。</li> <li>紙の接着や成形の仕方について具体的な形を示しながら説明を行う。</li> </ul>	4   6
<ul style="list-style-type: none"> <li>ランプシェードの鑑賞会を行い、お互いの作品を鑑賞する。</li> <li>これまでの振り返りを見て、本題材における教科としての学びと、社会とのつながりの中で活用される汎用的なスキルの獲得状況について振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や他者との対話を通して、自分の感じる美意識や表現の多様さを受け止め、認め合う意識をつくり出していけるように促す。</li> <li>これまでの学習を振り返らせ、成長したところや課題点について客観的に促し、生活や他の学習とつなげて考えられるようにする。</li> </ul>	7

## 6 学びの実現に向けた授業デザイン

### 【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

使う目的や使用する者の気持ちなどから表現したい作品について主題を生み出し、使いやすさや機能としての表現を追究すると共に、人の感情に与える効果について様々な視点から考える活動を通して、生活の中の美術の在り方や柔軟な思考力について考えている姿。



### 【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

#### ○観点別学習状況のあり方

##### 1. 「知識・技能」の指導と評価

本題材では、光の効果や材料の特性を知るためのワークを行い、素材となる紙に触れさせ、素材の特徴から効果をイメージする活動から、主題を表現する際に適した知識を実感をもって学ばせる。アイデアスケッチでは、4人班で相互に意見交換しながら、光の形や色彩、材料の特性などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などが感情にもたらす効果を客観的に捉えながら、より効果的な技法を使って作品を表現することができるようにする。評価する上では、制作が進む中で材料の特性に向き合ながら、学びを深めていく姿を形成的に評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりが見られるかを読み取ることが大切であるため、ワークシートの記述や制作段階の活動の様子、完成作品から知識・技能を一体的に評価する。

##### 2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

「心に灯したい想い」についてワークシートや思考ツールを用いて考えを広げ、身近な生活の中の美術の意義について深く考えさせるようにする。生徒の思考の広がり、制作前のアイデアスケッチから制作に向けてイメージをもっているかを暫定的に評価する場面を設定する。最終的には、授業外での作品制作に向けてのイメージマップやアイデアスケッチ、鑑賞授業の取り組みと併せて評価する。作品完成後には、展示した写真を撮影し、鑑賞の学びの一つとして活用する。なお、「心に灯したい想い・その理由」と「想いを表現するための工夫について」を分けて考えられるようワークシートを作成し、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を相互に関連させながら、創造的な視点をもって実感的に学びを深めることが出来るように促す。

##### 3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

毎時間の最初に PowerPoint や板書を用いて題材の学習の見通しや流れを示し、生徒自らが作品完成までの見通しをもって学習に取り組めるようにする。アイデアスケッチでは、ランプシェードを使用する者の気持ちや目的、社会との関わりについて触れながら、様々な見方や効果についてもっと良いものにしようと試行錯誤していく過程を評価する。また、授業中は教師からの形成的な評価やフィードバックを受け取るだけでなく、話し合いながら考えられる場をつくることで、他と共有し認め合う学習を通して、より意欲的に制作に向き合えるようにしたい。評価は、活動の様子と生徒が今まで書き溜めてきた振り返りを基に見て整理した記述、作品などから総合的に評価する。

#### ○生徒自身が「学習と成果」を実感できるプロセス

振り返りは、毎時間の終わりに付箋を使って自分が学んだ内容について整理していく。振り返りを行いながら制作に向けての考えを確認することで、学習を実感的に理解できるようにする。また、生徒作品鑑賞ではランプを飾った写真を使って鑑賞し、班で感想を伝えあいながら、様々な見え方に触れることで自分の意図の伝わり方を客観的に知り、成果を実感できるようにする。

#### 【本題材での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。（A表現(1)イ(ウ)）
- ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。（A表現(2)ア(ア)）
- ・材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表すこと。（A表現(2)ア(イ)）
- ・目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の感情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。（B鑑賞(1)ア(イ)）
- ・形や色彩、材料、光などの特性や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。（共通事項(1)ア）
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。（共通事項(1)イ）



#### 【本題材における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】（※「考えるための技法」はゴシック）

- ・対象や事象を**多面的・多角的に見る**と共に自分の考えを**構造化**して社会との関わりについて考えることは、TOFYの探究活動において情報を整理・分析する上でTOFYの課題を考察する上で必要になると考える。

